

■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 環編

//タイトルコール

環「離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 環編」

//牛の鳴き声「モオ～……」

環「恵くん、お疲れさま。一休みしましょう」

環「本当に助かったわ。この牧場、人手が足りないってこの時期いつもばやいてたから……ふふ、男の子がいてくれると、こういうとき助かるわ」

環「……ふふ、こういうとき、ね……」

環「隠さないの。バレてるのよ。さっきからずっとわたしのココ、見てたでしょ？」

環「やっぱりそうなのね。もうっ、牛さんのと比較するなんて失礼すぎよ」

環「なーんて、驚いた？ うふふ、怒ってないわよ。ただ、島の人の前では、ちょっと遠慮してね」

環「……でも、島の人がいないときは……ね？ ほら……恵くんったら、こんなに硬くして……」

環「こっち来て……そう、ここなら外から見えないから……ん、ああ、恵くん上手……」

環「あ……はあ、はあ……んふ、う……ま、待って、いまシャツ脱いじゃうから……」

//ここからシャツ越しの声

環「ひあっ！？ だ、だめっ！ 腋の下なんて、舐めちゃ……！ んふうっ、あ、あ

あん！」

環「ダメよ、そこ、汗かいてるから……ひああん！　あ、味……？　わたしの味がするって……もう、恥ずかしいから、そんなこと言わないで……」

環「んんんっ！　音たてないのっ、やだっ、そんな音させないでっ！　くすぐった、あん、くすぐったいから……ふあああん！」

//ここまでシャツ越しの声

//服脱ぐ音「バサッ」

環「はああ……もう、意地悪。ここの人間に聞かれちゃうじゃない……んあっ、つ……や、ま、待って、いまブラを外すから……」

環「はあ、はあ……さあ、いいわよ。さわって…………なあに、ジロジロ見て。その……そんなに見られると恥ずかしいわ。もう若くないんだから……」

環「え？　もう、そんなこと言って。でもうれしいわ。若い男の子にそう言ってもらえると……そう、さわって……恵くんの手で、いっぱい……」

環「ふう、はあっ……んああん！　ダメよ、そんなにきつく揉んじゃ……んあっ、ああん！」

環「あ、あ、ああっ……もう、力入れすぎよ？　乳搾りのクセが抜けてないんじゃない？」

環「女のひとのおっぱいはね、こうやってやさ～しく捏ねるように……そうよ、その調子。ふふ、上手ね……」

環「見て。恵くんの指、おっぱいの中に埋もれてる……そう、そうやってふにふにつて指を動かして……ああ、素敵、おっぱいがとけそう……」

環「続けて。おっぱいがとけちゃうまで……ずっと……はあ、はあ……」

環「ああ、とけちゃう……恵くんの指でおっぱいとかされちゃう……そうよ、もっと、もっと動かして……ああ、恵くんにおっぱいトロトロにされて、わたしい……つ」

環「っ！　いま、みたいに……先っぽをくすぐられると、気持ちよくなつて……ああん！」

環「んんっ、そうそこっ、さきっぽ、乳首っ、あ、そんなふうに触れたらっ、くふうっ」

環「声っ、出ちゃう……ああん、声が出ちゃう……んあむ、んん……ふっ、ふううっ！」

環「ふう、ふう……ふうう……もう、意地悪なんだから……そうよ、そこ。ふふ、硬くなってるでしょ？　恵くんのココと一緒に♪　女のひともね、興奮するところなるの」

環「きやっ！？　もう、びっくりするじゃない……急にしゃぶりついたりして」

環「ふふふ、こんなに夢中でしゃぶって……なんだか赤ちゃんみたい……」

環「そんなにおっぱいがいいの？　わたしのおっぱいが欲しいの？　ん？」

環「ほら、横になって、それから頭をわたしの膝の上に載せて……はあい、オトナ赤ちゃんのできあがり♪」

環「あんっ、もう、そんなに強く吸って……おっぱいなんて出ないのよ……んっ、はあん♪」

環「あ、舌でレロレロってされると……んんっ、乳首、どんどん硬くなっちゃう……」

環「あはっ♪　恵くんのおちんちんも硬くなってる……ほら、こんなに……」

環「ああ、おっきくて、硬くて……本当にたくましいわ……若い子ってすごい……」

環「あっ、いまビクンって動いたわ……ふふ、私の手が気持ちよかったの？　じゃあもっと、ほ～ら」

環「こうしてぎゅって握ると……ふふ、脈打つのがわかるわ。おちんちんの中で、血液がドクンドクンって」

環「んあっ！　もう、またきつく吸って……いいわ、じゃあこっちも……ほおら、シ

ュッショウ♪」

環「あはっ、またビクビクって跳ねた♪ こんなに強く握ってるのに……男の子ってすごい」

環「上下にシュッシュ、お手々でシュッシュ♪ あん、このくびれたところでひつかかっちゃう」

環「ん？ なあに？ ここがイイの？ この……くびれたところを、シュッシュされるのがいいの？」

環「それとも、こういうふうに……ギュウってされるのがいい？ ふふ、どっちもいみたいね。おちんちんが大喜びして跳ね回ってる」

環「ん……そうよ、おっぱいチュウチュウして。そう……あん、舌先で……そこ、いっぱいねぶって……ふああ」

環「ち、乳首っ、恵くんの口の中でどんどん膨らんでる……やだ、恥ずかしい形になっちゃう……」

環「ああ、もう片方のおっぱいまでグニグニって……はあ、恵くんの手で形、変えられてる……」

環「もう、負けないんだから……ほおら、おちんちんシュッシュ、くびれたところをシュッシュ♪」

環「うふふ、夢中でおっぱいしゃぶっちゃって……恵くん、可愛い……♪」

環「オトナ赤ちゃんの恵くん♪ こんなに立派なおちんちん持ってるくせに、甘えん坊さんなのね♪」

環「はあ……おちんちん熱い……お手々の中でどんどん熱くなって……ヤケドしそう……あ、またビクンって」

環「はあん、いかないで、ほらこっち……もう、暴れん坊なんだから……いい子いい子しましょうね～♪」

環「んんっ、あっ、恵くんってば……そんなに必死になって……ダメよ、出ないの、おっぱい出ないから……強くしないの」

環「んんうっ！　こ、こらっ、ダメよ、両手で搾るみたいに……くううっ、これじゃホントに牛さんの乳搾りみた……あううっ！」

環「こら、悪い子ね……それじゃあこっちも……んぎゅうって……！」

環「はあ、はあ……ガマン比べしてるつもりなの……？　もうっ、本気出しちゃうわよ？」

環「もうこんなに先走りの涙を流して、泣き虫おちんちんのクセに……えいっ、えいっ……ふふ、ビクビクして泣いてる……このままじゃ、んっ、わたしに負けちゃうわよ？」

環「っ！？　ま、待って……いま話し声が聞こえなかった？」

環「……観光にきたお客さんだわ。け、恵くんいったん離れて……んあううっ！」

環「恵くん！？　んう、強く、しないで……ああん、人が、人が来てるの……！」

環「あん、抱きつかないの……！　早くしないと、ああん、見られる、見られちゃう……！」

環「え？　満足したら離れる……？　な、なにを言ってるの？　もうここまで来てるのよ！？」

環「ああ、どうしよう……も、もう、恵くんの意地悪っ！　は、早く出して……ん、んんっ」

環「おちんちん、硬い……さっきよりもずっと硬くて熱くなってる……どうして… …？」

環「興奮、してるの？　誰かに見られるかもしれないから……興奮しちゃってるの？」

環「本当にしょうのない子なんだから……ああ、すごい、どんどんくましくなってる……手におさまりきらない……！」

環「んっ、んっ、んんっ、早く、早く出して……ああ、お願ひ……」

環「ひんっ！？ ま、またキツく吸ってえっ！ ダメなの、声が出ちゃうから……！」

環「あふうっ！ く、くううっ！ んううっ！ はや、くう……おねが、いい……！」

環「ああ、もうそこまで来てる、来てるわ……バレちゃう、こんなことしてるの、見られちゃうっ！」

環「ダメっ、ダメダメダメえッ！！ あ、あうううううううっ！」

//絶頂＆射精1「びゅ——————っ」

環「あ、熱いのが手に……！ ああ、恵くんのがこんなに……ああん、まだ出てるっ、まだどんどん出てるっ！」

環「熱いっ、恵くんの熱いので、手がヤケドしちゃう……！」

環「はあ、はあ……あ……あれ？ 人は……？」

環「……行っちゃったみたい……はあ……よかったです、本当によかったです……」

環「恵くんったらやりすぎよ、もう。わたし、怖くて死んじゃいそうだったわ……」

環「さ、スッキリしたでしょ？ そろそろ仕事に戻りましょう」

環「え？ 恵……くん？ ああんっ」

//押し倒される音「ドサッ」

環「も、もうっ、本当にエッチなんだから……♪ また人が来たらどうするの？」

環「満足したかって……？ わ、わたしは……その……恵くんが、したいならそれで

……」

環「う、ううん。私は……私はしたい……♪ 誰かに見られてもいいっ、恵く……恵としたいっ♪」

環「お願い、恵も名前で呼んで……ああん、環って呼んでっ♪」

環「はあん、がっつかないの。あ、あはあ……恵のがまた……おっきくなってる……すごい……」

環「い、入れてっ、はやくわたしのナカにっ……ねえ、ねえっ！」

環「え？ こ、この姿勢で……？ はあ、はあ……これじゃわたしたち、本当に動物みたい……♪」

環「いいわよ。後ろから来て♪ 恵のぶとくてカリ高のおちんちんで、わたしのナカをかき回して♪」

環「あ、当たって、る……恵のが……あんなに太くて硬いのが……あっ、そこ、そこっ、そのままいれ……あ、あふうっ！」

環「あ、あ、あああああああん♪ きたあっ！ 恵のすごいの、入っちゃった……！」

環「ま、待って！ まだ準備できてないの、いま、力を抜くから……え？ もう準備できる？」

環「濡らしてる？ お漏らししたみたい……って、やつ、恥ずかしいこと言わないでっ！」

環「こ、これは……恵のを擦ってるうちに……それにつ、恵がおっぱいをあんなに吸うから……」

環「ふああっ♪ ずるっ、いい……いきなりそんな深く……っ！ ああん、広げられちゃうっ、恵の太いので……わたしの入り口っ♪」

環「はあ、はあ……キツい？ わたしのナカが？ あは、恵ったらお世辞なんか言っ

てもダメよお……んあ、恵のがっ、どんどんナカに来るう♪」

環「動いちゃう、あんつ、腰が勝手に……動いちゃうっ♪ 恵のが欲しくて……ああ、腰がエッチに動いちゃうの……♪」

環「あ、あ、あつ、パンパンいってるっ！ 音っ、恵のがわたしのお尻にぶつかって……パンパンっていってるっ！」

環「もっと、恵、もっと！ あ、あううつ、あ一一一っ！！」

//射精弱（？）「ぴゅ……」

環「すごっ……いま、あついのが、ナカで……ああん……！」

環「はあ、はあ……少し出しちゃったのね。ふふふ、せつかちさんなんだから」

環「あん、大丈夫よ。そんなしょげないで。若いんだから仕方ないわ。それに……ふふ、まだ私の中でギンギンになってるじゃない」

環「これだけ元氣があれば大丈夫よ。恵だって、まだまだ物足りないでしょ？ 少なくとも、おちんちんはそう言ってるわよ」

環「あうん！ もうっ、すぐがっつくんだから……恵ってば動物そのもの……あ、あんつ、またっ、お尻にぶつかってる……っ！」

環「え？ 耳を澄ませって？ ……やあっ、聞かせないでっ！ グチュグチュって……そんな音させないでえっ！」

環「ああん、そこっ、入り口あたりで擦られると、エッチな音が出ちゃう！ ああん、だから奥っ、奥までえ、ズンズンって奥まで来てえっ！」

環「ん、くうっ！ ほらお尻、高く掲げるから……これで入れやすく……なったでしょ？ ああ、恥ずかしい……こんなカッコ……」

環「ああ、揺れちゃう、身体が揺れちゃうっ！ ズンズンって恵が奥まで来るたびに、身体が揺れて……ああ」

環「くひっ、ひっ、ひううっ……！　け、恵、少しゆっくり……」

環「だ、だって……あんっ、恵が突いてくるたびっ、か、身体、動いてえつ……！」

環「んん……お、おっぱいが……あんっ、乳首がっ、地面に擦れちゃうのっ！　これ、すごいのっ♪」

環「パンツ、パンツてなるたびに、おっぱいがたぶんたぶん揺れてっ……はあん！　乳首ズリッ、ズリッてなるう……♪」

環「おまんことおっぱい、一緒に責められるとっ！　ああん、頭真っ白になるつ、なにもかもわからなくなっちゃうつ！」

環「ああ、すごい……ここ、外なのに……こんなことしちゃいけないのに……」

環「でもそう思えば思うほど……ああっ、ダメになるつ、わたしも動物みたいにっ、なっちゃうつ！！」

環「お願い恵っ！　ガツガツ責めてっ！　動物みたいに、ケモノみたいにわたしを犯してえつ♪」

環「んんんっ！！　奥まで来たっ♪　恵のおちんちんが、赤ちゃんの部屋の入り口をノックしてるうつ♪」

環「あの子たちの産まれた部屋っ、ああ、わたしの一番深いところを……恵が開いちやうっ、恵のおちんちんが入ってきちゃううううっ！！」

環「お願い恵っ！　そこ、そこなのっ！　そこで一緒に……一緒にイッてえつ♪」

環「平気っ、大丈夫っ、今日は安全日、だからっ、いっぱい出してっ、恵のでわたしのナ力を満たしてっ！」

環「ん……あああっ、恵のが膨らんでるっ！　爆発しようとしてるの、わかるうううっ！！」

環「あっ、あっ、ふああああっ！！ イクっ、恵の熱いのでイクっ！ イっちゃうううううううううううつ！！」

//絶頂＆射精1「びゅ——————つ」

環「す、すご、い……恵の、奥まで届いてる……あ、ああん、わかるううう……」

環「恵ので、赤ちゃんの部屋がいっぱいになってる……あ、い、行かないで……もう少し……んっ、最後まで出してつ」

//射精2「ぴゅるつ ぴゅるつ ぴゅるつ」

環「ん、んっ、んんんっ……はあ、はあ……すごい……まだこんなに出るなんて……」

//射精3「ぴゅ… ぴゅ…」

環「ふわあああ……ああん、身体中が恵ので真っ白にされちゃったみたい……幸せ……♪」

//遠くで牛の鳴き声「モ～……」（時間経過表現）

環「あら、どうしましょう。もうこんな時間」

環「と、とにかく恵……くんは、服を着て。わたしが先に戻るから、時間を置いてから戻ってきてね？」

環「え？ 匂い？ わ、わたし恵くんのアレの匂いがしてる？ やだっ、早く言ってちょうだい！」

環「香水をつければごまかせるかしら？ もうっ、恵くんのってすごく濃いから……」

環「ふふ、それじゃ、お先に♪ またあとで……ね♪」